

力ヲ失ハシムルコトヲ參照スヘシ或ハ裁判上ノ請求ハ却下云云ト云フトキハ單ニ所謂請求ノ却下ノ場合ノミヲ意味スルノ嫌アルヲ以テ右ノ二字ヲ挿入シタルモノト謂フコトヲ得ヘキカ(衆議院特別委員會ニ於テ右ノ修正意見ヲ提出シタル者ハ請求ノ却下ノ場合ニハ時効中斷ノ問題ヲ生セサルモノト誤解セリ)舊民法ニハ管轄違其他形式上ノ缺點ノ爲メ訴ヲ却下シタル場合ニ於テハ仍ホ時効中斷ノ效アルモノトシ却テ請求ノ却下アリタルトキノミ時効中斷ノ效ナキモノトセリ(證一一一、一一二、一號)

管轄違其他形式ノ缺點ノ爲メ訴ヲ却下シタル場合ニ於テハ仍ホ時効中斷ノ效ヲ生スルモノトスル例少カラス然リト雖モ新民法ニ於テハ一切ノ請求ヲ以テ時効中斷ノ原因ト爲シタルカ故ニ若シ原告ニシテ豫メ催告ヲ爲セハ以テ時効ヲ中斷スルニ足レリ故ニ裁判上ノ請求ハ形式上ノ缺點ノ爲メ時効中斷ノ效ヲ生セサルモ爲メニ原告ニ對シテ過酷ナリト爲スヘカラス而シテ違法ナル訴ハ法律上無効ナルヘキコト固ヨリ當然ナルカ故ニ本條ニ於テハ形式上ノ缺點ニ因リテ却下セ

ラレタル訴モ亦時効中斷ノ效ヲ生セサルモノトシタルナリ

第三 取[○]下[○]

是レ原告カ自ラ訴訟ヲ拋棄シ又ハ一年間訴訟手續ヲ休止シタルカ爲メ訴ヲ取[○]下[○]ケタルモノト看做サル場合はナリ(民訴一八八、三項)

第一百五十條 支拂命令ハ權利拘束力其效力ヲ失フトキハ時効

中斷ノ效力ヲ生セス(民訴三八九、一項、三九一、二項)

本條ハ督促手續ニ由リテ請求ヲ爲ス場合ニ付テ規定セリ此場合ニ於テハ請求ハ支拂命令ノ申立ニ因リテ其效力ヲ生スヘキモノトス(民訴三八二)蓋シ債權者ノ行爲ハ其申立ニ止マリ其送達ハ裁判所ニ於テ爲スヘキモノナルカ故ニ普通ノ訴訟ニ於テ訴狀ノ提出カ時効中斷ノ效力ヲ生スル如ク此場合ニ於テハ支拂命令ノ申立カ時効中斷ノ效力ヲ生スヘキナリ(反對ノ裁判例アリ、法學志林七卷八號四頁、法律新聞二三三號七頁)然レトモ此支拂命令モ亦法律上全ク其效力ヲ失フヘキ場合(權利拘束ノ效力ヲ失フヘキ場合)ニハ時効中斷ノ效力ヲモ失ハサルコトヲ得ス即

チ民事訴訟法第三百九十一條第二項ノ場合ニ於テハ支拂命令ハ時効中斷ノ效力ヲ失フヘシ

第五百五十一條 和解ノ爲メニスル呼出ハ相手方カ出頭セス又

ハ和解ノ調ハサルトキハ一个月内ニ訴ヲ提起スルニ非サレ

ハ時効中斷ノ效力ヲ生セス任意出頭ノ場合ニ於テ和解ノ調

ハサルトキ亦同シ(證一〇九、一項二號、一一四、民訴三七八、三八

一)

本條ハ區裁判所ニ於テ和解ノ爲メニ相手方ヲ呼出シ又ハ相手方ト共ニ出頭スル場合ニ付テ規定セリ此場合ニ於テハ其呼出又ハ任意出頭ハ請求ノ一方法トシテ時効中斷ノ效力ヲ生スヘシ然リト雖モ此呼出又ハ任意出頭ノミニシテ當事者カ和解ヲモ爲サス又訴訟ヲモ爲ササルトキハ未タ權利者ニ於テ充分ニ其權利ヲ伸張スル意思アルモノト認ムルコト能ハス故ニ本條ニ於テハ呼出ノ場合ニ於テ相

手方カ出頭セス又ハ何レノ場合ニ於テモ和解ノ調ハサルトキハ必ス一个月内ニ訴ヲ提起スルニ非サレハ時効中斷ノ効ナキモノトセシナリ(民訴三七八、三八一)

第五百五十二條 破産手續參加ハ債權者カ之ヲ取消シ又ハ其請

求カ却下セラレタルトキハ時効中斷ノ效力ヲ生セス(舊商一

〇二五乃至一〇二八)

本條モ亦請求ノ一方法ナル破産手續參加ニ付テ規定セリ破産手續參加ハ殆ト裁判上ノ請求ト異ナルコトナシト雖モ其手續自ラ同シカラス固ヨリ之ヲ以テ訴ノ提起ト爲スコトヲ得ス然リト雖モ債權者ニ於テ其權利ヲ伸張スルノ意思ハ最モ明確ニ表見セリト謂ハサルコトヲ得ス故ニ之ヲ以テ時効中斷ノ一原因ト爲シタルナリ然リト雖モ是レ法律上其請求ノ效力ヲ存スル場合ニ於テノミ然ルモノナリ債權者カ其參加ヲ取消シ又ハ破産裁判所ニ於テ其請求ヲ却下シタルトキハ(舊商一〇二七)復時効中斷ノ効ナキモノトセリ

破産手續參加トハ破産ノ申立又ハ債權ノ届出是ナリ(舊商九七八一項、一〇二三、三十七年十二月九日大審院判決)

第五百十三條 催告ハ六个月内ニ裁判上ノ請求、和解ノ爲メニ

スル呼出若クハ任意出頭、破産手續參加、差押、假差押又ハ假處分ヲ爲スニ非サレハ時効中斷ノ效力ヲ生セス(證一一六)

本條ハ請求ノ最モ普通ノ方法ナル催告ニ付テ規定セリ。催告トハ必スシモ執達吏ニ依レルモノヲ云フニ非ス。普通ノ書面又ハ口頭ニテ之ヲ爲スモ可ナリ。唯普通ノ書面又ハ口頭ニテ爲シタル催告ハ後日其證據ヲ提出スルコト困難ナルヘキヲ以テ自ラ執達吏ニ依ルニ非サレハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スカ如キコト多カルヘシ

新民法ニ於テハ外國ノ多數ノ例ニ違ヒ最モ時効中斷ノ方法ヲ容易ニセリ。是レ單ニ時効ヲ中斷スルカ爲メ突然訴ヲ提起スルカ如キ弊ヲ避クルノ利アルヲ以テナ

リ然リト雖モ一片ノ催告ノミニテハ未タ權利者カ其權利ヲ伸張スルノ意思充分明確ナリト云フコトヲ得ス。故ニ之ニ因ル時効中斷ノ效力ヲシテ永久ニ存續セシメント欲セハ權利者ハ必ス六个月内ニ更ニ一層強力ナル權利行使ノ方法ヲ取ラサルヘカラス。即チ裁判上ノ請求(督促手續ニ依ル請求ヲモ包含スルコト勿論ナリ)和解ノ爲メニスル呼出若クハ任意出頭、破産手續參加、差押、假差押又ハ假處分ヲ爲スコトヲ要スルモノトセリ

第五百十四條 差押、假差押及ヒ假處分ハ權利者ノ請求ニ因リ

又ハ法律ノ規定ニ從ハサルニ因リテ取消サレタルトキハ時

効中斷ノ效力ヲ生セス(證一一七、一項、二項)

本條及ヒ次條ハ差押、假差押及ヒ假處分ニ付テ規定セリ。蓋シ此等ノモノハ權利者カ其權利ヲ伸張スル意思ヲ表明スルコト最モ著シキモノト謂ハサルコトヲ得ス。然リト雖モ若シ此等ノ行爲ニシテ全ク法律上ノ效力ヲ失フトキハ時効中斷ノ効

カヲモ併セテ失フヘキハ固ヨリナリ例ヘハ民事訴訟法第六百五十條第三項、第六百五十三條、第六百五十六條第二項、第七百十六條第三項、第七百二十一條第三項、第七百二十三條、第七百四十六條第二項、第七百六十一條第二項等ノ場合はナリ然ルト雖モ差押カ適法ナル場合ニ於テ其差押カ權利者ノ行爲ニ因ラスシテ取消サレタルトキハ敢テ時効中斷ノ效力ヲ失フコトナキナリ(民訴五〇〇、一項、五四七、二項、五四八、一項、五四九、四項、五五一、七四五、二項、七四七、一項、七五四、七五九等)

第五百五十五條 差押、假差押及ヒ假處分ハ時効ノ利益ヲ受クル

者ニ對シテ之ヲ爲ササルトキハ之ヲ其者ニ通知シタル後ニ非サレハ時効中斷ノ效力ヲ生セス(證一一七、三項)

差押、假差押又ハ假處分ハ動モスレハ時効ノ利益ヲ受クヘキ者ニ非サル者ニ對シテ之ヲ爲スコトアリ例ヘハ債務者ニ非サル者ヨリ供シタル抵當不動産ノ差押若クハ假差押又ハ第三者ノ占有ニ在ル不動産ヲ他ノ者ニ保管セシムルノ假處分ノ

如キハ皆時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ之ヲ爲サス故ニ特ニ之ヲ其者ニ通知スルコトナクシテ時効中斷ノ效ヲ生スルモノトセハ其者ハ權利者カ其權利ヲ行使シタルコトヲ知ラサル間ニ時効ノ中斷ニ遇フヘキカ故ニ時効中斷ノ原理ニモ反シ又實際ニ於テモ頗ル酷ニ失スルノ譏ヲ免レサルヘシ故ニ本條ニ於テハ特ニ之ヲ時効ノ利益ヲ受クル者ニ通知スルニ非サレハ時効中斷ノ效ナキモノトセリ

第五百五十六條 時効中斷ノ效力ヲ生スヘキ承認ヲ爲スニハ相手方ノ權利ニ付キ處分ノ能力又ハ權限アルコトヲ要セス(證

一一二二)

本條ハ時効中斷ノ第三原因タル承認ニ付テ規定セリ承認ハ如何ナル方法ヲ以テスルモノモ皆時効中斷ノ效ヲ生スヘキコトハ既ニ第四百十七條ニ於テ論シタル所ナリ唯此承認ハ如何ナル能力又ハ權限ヲ有スル者カ之ヲ爲スコトヲ要スルカハ聊カ疑義ヲ生スル虞アリ蓋シ承認ヲ爲ササレハ時効完成シテ或ハ權利ヲ取得

シ或ハ相手方ノ權利消滅スヘキニ今承認ヲ爲ストキハ時効中斷セラレテ更ニ長日月ヲ經過スルニ非サレハ其時効完成セサルヘシ故ニ其效力ヨリ之ヲ觀レハ此承認ハ殆ト權利ヲ拋棄シ若クハ債務ヲ負擔スルト異ナルコトナシ故ニ若シ明文ナケレハ此承認ヲ爲スニハ必ス處分ノ能力又ハ權限アルコトヲ要スルカノ疑ヲ生スヘシ然リト雖モ承認ナルモノハ既ニ得タル權利ヲ拋棄シ又ハ他人カ有セサル權利ヲ認ムルニ非ス唯相手方ノ權利ヲ事實ノ儘ニ認ムルニ過キス故ニ若シ相手方ニシテ眞ニ權利ナキトキハ後日之ヲ爭フコトヲ得ルハ固ヨリナリ唯其權利アルコト明確ナル場合ニ於テ若シ時効中斷セラレサリシナランニハ其時効ニ因リテ相手方ノ權利消滅シタランニ承認ヲ爲シタルカ爲メ其權利未タ消滅スルニ至ラサルコトアリ然リト雖モ他人ノ權利ヲ認ムルハ或ハ財産ヲ保存シ或ハ之ヲ利用スルノ方法ニ過キスシテ即チ純然タル管理行爲ナリ例ヘハ他人ヨリ借受ケタル物ハ期限ニ至リテ之ヲ返ササルトキハ損害賠償其他ノ責ニ任セサルヘカラス故ニ速ニ之ヲ返還スルハ即チ財産ヲ保存スルノ方法ニ過キス又例ヘハ金錢ヲ

以テ債務ノ辨濟ニ充ツルハ其金錢ヲ利用スルノ方法ナリト謂フコトヲ得ヘシ然ルニ借受ケタル物ヲ返還シ其他債務ヲ辨濟スルハ他人ノ權利ヲ承認スルノ最モ著シキモノニシテ之ヲシモ管理行爲ナリトセハ單ニ時効中斷ノ方法トシテ承認ヲ爲スカ如キハ必ス管理行爲ニ屬セサルコトヲ得ス故ニ本條ニ於テハ管理行爲ヲ爲ス能力又ハ權限アル者ハ皆右ノ承認ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ例ヘハ準禁治產者、後見人等ハ保佐人、親族會等ノ同意ヲ得サルモ有效ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(二二、一〇三、九二九、人一九三、一九四)

第五百五十七條 中斷シタル時効ハ其中斷ノ事由ノ終了シタル

時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム

裁判上ノ請求ニ因リテ中斷シタル時効ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム(證一〇四、二項、一〇六、二項、一一三、一二一、一六三)

本條ハ時効中断ノ效力ヲ定メタルモノナリ蓋シ時効力中断セラレタルトキハ從來經過シタル期間ハ復時効期間中ニ算入スルコトヲ得ス然リト雖モ中断ノ後更ニ新ナル時効其進行ヲ始ムヘシ而シテ其起算日ハ中断原因ノ終了シタル時ニ在リ例ヘハ破産手續參加ノ場合ニ於テハ其手續ノ終了シタル時ヨリ差押ノ場合ニ於テハ競賣配當等ニ至ルマテ差押ノ目的タル一切ノ執行行爲ヲ終ハリタル時ヨリ催告ノ場合ニ於テハ其催告ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ新時効其進行ヲ始ムヘシ而シテ裁判上ノ請求ノ場合ニ於テハ裁判確定ノ時ヲ以テ請求終了ノ時ト爲スカ故ニ此時ヨリ初メテ新時効其進行ヲ始ムヘキモノトス是レ本條ニ規定スル所ナリ

舊民法及ヒ外國ノ多數ノ例ニ依レハ中断ノ後ハ往往ニシテ時効其性質ヲ變シ初メ短期ナリシモノ變シテ長期トナル場合鮮シトセス然レトモ本法ニ於テハ之ヲ採ラス他ナシ承認裁判等皆從來ノ權利ヲ認ムルニ止マルモノニシテ毫モ其權利ノ性質ヲ變スルモノニ非ス然ルニ時効ノ短期ナルモノト長期ナルモノトハ專ラ

權利ノ性質如何ニ關ス故ニ其性質ノ變更スルコトナキニ短期時効變シテ長期時効ト爲ルノ謂レナケレハナリ

四 時効ノ停止

第五百五十八條 時効ノ期間滿了前六个月内ニ於テ未成年者又ハ禁治産者カ法定代理人ヲ有セサリシトキハ其者カ能力者ト爲リ又ハ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六个月内ハ之ニ對シテ時効完成セス(證一三二)

本條以下第六十一條ニ至ルマテハ時効ノ停止(suspension, Hemmung)ニ關スル規定ナリ時効ノ停止トハ既ニ經過シタル期間無効ニ歸スルニ非スト雖モ唯停止原因ノ存スル間ハ時効暫ク其進行ヲ停メ其原因已ムノ後一定ノ期間ヲ經過スルニ非サレハ時効完成セサルヲ謂フ是レ大ニ中断ト異ナル所ナリ但舊式ノ法律ニ於テハ大抵停止原因ノ存スル期間ハ全ク之ヲ控除シ停止前ノ期間ト停止後ノ期間ト

ヲ合セ以テ時効ノ期間ヲ計算スヘキモノトセルモ後ニ論スヘキ理由ニ據リ新民法ニ於テハ時効ノ終ニ於テ一時ノ停止アルモノトセルニ過キス

時効ノ停止アル場合ハ皆事實上權利ヲ行使スルコトヲ得サル場合ナリ蓋シ時効ハ素ト權利者カ其權利ヲ行使スルコトヲ怠リタルニ因リテ生スルモノナルカ故ニ若シ其權利ヲ行使スルコトヲ得サレハ敢テ之ヲ怠リタリト謂フコトヲ得ス隨テ時効ノ進行スヘキ謂レアラサレハナリ (Contra non valentem agere, non Currit prescriptio 有効ニ訴追スルコトヲ得サル者ニ對シテハ時効進行セス)

本法ニ於テハ停止ノ四原因ヲ認メタリ (一)無能力者ノ爲メニ存スル一般ノ停止 (二)無能力者カ其法定代理人ニ對シ又ハ妻カ其夫ニ對スル特別ノ停止 (三)相續財産ニ關スル停止 (四)事變ニ因ル停止是ナリ本條ハ右ノ第一原因ニ付テ規定セリ

從來未成年者又ハ禁治產者ヲ保護センカ爲メニ其無能力ノ間ハ時効全ク停止スヘキモノトセル例最モ多シ是レ無能力者ヲ保護スル點ニ於テハ間然スル所ナキカ如シト雖モ願ミテ其相手方ノ利害ヲ考フレハ實ニ憐ムヘキモノアリ蓋シ其者

カ通常人ナランニハ十年乃至二十年ニシテ(外國ニ於テハ三十年ノ時効最モ多シ)時効ノ利益ヲ得ヘキニ會其者カ無能力ナルカ爲メニ其未成年者ナルトキハ動モスレハ四十年ニ近キ星霜ヲ經サレハ時効完成セス其禁治產者ナルトキハ幾十年ノ後時効完成スヘキカ殆ト測リ知ルヘカラス此ノ如クンハ取引ノ安全得テ望ムヘカラス從テ社會ノ信用ヲ妨クルコト實ニ尠少ナラサルヘシ近來ノ立法者ハ大ニ茲ニ見ル所アリテ種種ノ方法ヲ案出シ以テ此弊ヲ矯メントセリ舊民法ノ如キモ稍、此方針ヲ執リタルモノト謂フヘシ然リト雖モ其方法タルヤ未タ盡ササルモノアリ請フ其理由ヲ説明セン證據編第三百三十一條第二項ニ依レハ未成年者及ヒ禁治產者ノ爲メニ最後ノ一年ニ付キ時効ノ停止アルモノトセリ是レ佛、蘭、伊等ノ制ニ比スレハ大ナル進歩ナリト雖モ仍ホ未成年者ニ付テハ四十年許ノ間、禁治產者ニ付テハ其終身間時効完成セサルコトアルヘケレハナリ夫レ無能力者ハ自ラ其利益ヲ保衛スルコト能ハサル者ナルカ故ニ法律カ特ニ之ヲ保護スヘキハ勿論ナリト雖モ爲メニ取引ノ安全ヲ害シ信用ノ發達ヲ妨クルカ如キハ斷シテ不可

ナリ今未成年者及ヒ禁治産者ニハ必ス法定代理人ヲ附スヘキモノトセリ而シテ此法定代理人ノ責任ニ付テハ詳細ナル規定ヲ設ケ必要ナル場合ニハ擔保ヲモ供セシメタリ(舊民法ニハ法律上ノ抵當ヲ認ムルト雖モ新民法ニ於テハ之ヲ認メス唯親族編ニ於テ後見人ハ親族會ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘキコトヲ規定セリ(九三三)故ニ無能力者ノ保護ハ既ニ至レリト謂フヘシ而シテ最モ多クノ場合ニ於テハ法定代理人ハ本人ニ代ハリテ其權利ヲ行使スルコトヲ怠ラサルヘク若シ之ヲ怠リタルトキハ之ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ爲メニ無能力者カ損失ヲ蒙ルコトハ極メテ稀ナルヘシ故ニ本法ニ於テハ苟モ無能力者ニ法定代理人アル間ハ毫モ時效ノ進行ヲ止メシメス唯法定代理人ノ缺ケタル場合ニ於テハ無能力者ノ利益ヲ保護スヘキ者アラサルカ故ニ一時時效ノ進行ヲ止メシムルニ非サレハ事實上無能力者カ權利ヲ行フコト能ハサル間ニ時效忽チ完成スルコトナシトセス故ニ此場合ニ於テハ其無能力者カ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人カ就職スルマテハ勿論尙ホ其後六個月内ハ時效完成セサルモ

ノトセリ是レ他ナシ書類等ヲ調査スルニ非サレハ其權利アルコトヲ知ラサルコト多ク之ヲ調査スルニハ相當ノ期間ヲ要スルヲ以テナリ但此場合ニ於テハ時效絶對ニ其進行ヲ停止スルニ非ス唯時效ヲ完成スルニ垂トセル場合ニ於テ右ノ期間内ニ完成スルコト能ハサルノミ例ヘハ二十年ノ時效力既ニ十九年十個月ヲ過キ尙ホ二個月ニシテ將ニ完成セントスルニ當リ權利者死亡シ其相續人未成年者ナル場合ニ於テ其當然ノ法定代理人アラサルトキハ先ツ其法定代理人ヲ選任セシメサルヘカラス此場合ニ於テハ其法定代理人カ選任セラレテヨリ六個月ヲ經過スルニ非サレハ時效完成セス之カ爲メニ時效ノ完成少クモ四個月有餘ヲ後ルルニ至ルヘシ(尙ホ此場合ニ於テハ後ノ一六〇ノ規定ニ依ルモ相續ノ日ヨリ少クモ六個月間ハ時效完成セス)例ヘハ未成年者ニ對シ十年ノ時效既ニ九年九個月ヲ過キ尙ホ三個月ニシテ將ニ完成セントスルニ當リ其法定代理人辭任シ更ニ親族會ニ於テ其後任者ヲ選任スヘキトキハ其選任シタル者カ就職シテヨリ六個月ヲ經過スルニ非サレハ時效完成セス此場合ニ於テハ時效ノ完成少クモ三個月有餘

ヲ後ルルニ至ルヘシ又例ヘハ禁治産者ニ對シ二十年ノ時効既ニ十九年八个月ヲ過キ尙ホ四个月ニシテ時効完成セントスルニ當リ禁治産者ノ後見人死亡シ一時其法定代理人ヲ缺キタルニ禁治産者ハ既ニ其心神平生ニ復セシヲ以テ直チニ禁治産ヲ取消ヲ請求シ遂ニ其取消ノ裁判アリタリトセンニ其裁判ヨリ六個月ノ後ニ非サレハ時効完成セス故ニ此場合ニ於テハ時効ノ完成少クモ二个月有餘ヲ後ルルニ至ルヘシ

禁治産者ノ後見人ハ往往法律ニ依リテ定マレル場合アリ(九〇二、九〇三)此場合ニ於テハ禁治産ノ宣告其效力ヲ生スルト同時ニ之カ法定代理人アルカ故ニ(人事訴訟手續法五二)本條ヲ適用スルコト能ハス是レ立法論トシテハ或ハ以テ缺點トスヘキカ

第五百十九條

無能力者カ其財産ヲ管理スル父母又ハ後見人

ニ對シテ有スル權利ニ付テハ其者カ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六個月内ハ時効完成セス

妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ婚姻解消ノ時ヨリ六個月内亦同シ(證一三四、一三五)

本條ハ無能力者カ其法定代理人ニ對シ又妻カ夫ニ對スル特別ノ停止ニ付テ規定セルモノナリ蓋シ無能力者ノ權利ハ其法定代理人之ヲ行フカ故ニ若シ無能力者カ其法定代理人ニ對シテ權利ヲ有スル場合ニ於テハ其法定代理人ハ自己ニ對シテ其權利ヲ行ハサルコト往往ニシテ之アルヘシ然ルニ無能力者ハ自ラ其利益ヲ保衛スルコト能ハス又他人ハ代理權ナキノミナラス(後見監督人ニハ代理權アルヘキモ九一五、四號)人一九九平生被後見人ノ財産ヲ管理セサルカ故ニ時効中斷ノ必要アル權利アルコトヲ知ラサルコト尤モ多カルヘシ其權利ノ有無條件等ヲモ知ラサルカ故ニ之ニ代ハリテ其權利ヲ行フコト能ハス然ルニ其權利ニシテ時効ニ罹リ消滅スヘキモノトセハ無能力者ノ地位眞ニ憐ムヘキモノト謂フヘシ故ニ本條ニ於テハ無能力者カ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル後六個月ヲ經過スルニ非サレハ時効完成セサルモノトセリ(本條ニ無能力者ト云ヘル

ハ未成年者ト禁治産者トノミヲ言ヘルナリ故ニ前條ノ如ク之ヲ明言スルモ可ナリシカ唯本條ニ於テハ「無能力者」ト云フモ前條ニ於ケルカ如ク不明ナル嫌アラサルヲ以テ此文字ヲ用ヒタルモノカ尙ホ其財產ヲ管理スル父母又ハ後見人ト云ヒタルハ父又ハ母カ管理權ヲ有セサルコトアリ八九七、八九九又特ニ法定代理人ヲシテ管理セシメサル財產アリ八九二、九三六故ニ本條ハ法定代理人ノ管理ニ係ル財產ニ付テノミ其適用アルヘキコトヲ明カニスルノ必要アリタルヲ以テナリ）夫ハ必スシモ妻ノ法定代理人タルニ非ス又其代理人タルトキト雖モ是レ妻ノ無能力ト何等ノ關係ナキコト多シ（八〇一）取四二八ニ據レハ夫ハ妻ノ財產ヲ管理スルヲ原則トス然レトモ是レ妻ノ無能力ト毫モ相關スル所ナシ故ニ契約ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ妨ケサルナリ唯七九一ニ據レハ妻カ未成年者ナルトキハ夫カ後見人ノ職務ヲ行フコトアリ此場合ニ於テハ夫ハ無能力者ノ法定代理人タルナリ故ニ右ノ規定ハ當然之ヲ妻ニ適用スルコト能ハス然リト雖モ夫ハ妻ニ對シテ權力ヲ有スル者ナルカ故ニ妻ハ之ニ對シテ權利ヲ行フコト能ハサルコト多カラ

ン或ハ曰ハン此場合ニ於テハ夫婦ノ利益相反スルカ故ニ妻ハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セスト一七六號然レトモ實際妻カ夫ヲ訴フルコトハ爲シ難キ所ナリ故ニ若シ妻カ夫ニ對シテ有スル權利モ一般ノ規定ニ依リ時効ニ罹ルモノトセハ妻ノ權利ハ動モスレハ時効ニ罹リテ消滅スルニ至ルヘシ故ニ此權利ハ婚姻解消ノ時ヨリ六ヶ月ヲ經過スルニ非サレハ時効ニ因リテ消滅セサルモノトセリ本條及ヒ前條ニ於テ無能力者死亡ノ場合ニ關シ何等ノ規定ナキハ次條ノ規定アレハナリ

第六十條 相續財產ニ關シテハ相續人ノ確定シ、管理人ノ選任セラレ又ハ破産ノ宣告アリタル時ヨリ六个月内ハ時効完成セス（財五四六、二項、證一二六、一二七）

本條ハ相續財產ニ關シテ特別ノ停止原因ヲ認メタルモノナリ蓋シ相續ノ場合ニ於テハ相續人ノ確定スルニ至ルマテニハ多少ノ日子ヲ要スルコトアリ時トシテ

ハ相續人ナキカ爲メ一時管理人ヲ選任シテ相續財産ヲ管理セシムルコトアルヘク又時トシテハ被相續人カ支拂ヲ停止セシカ爲メ破産ノ宣告ヲ爲スコトアルヘシ(民施二ニ依リ家資分散ノ宣告アリタル場合ニ於テハ其時ヨリ本條ノ期間ヲ起算スヘシ、破産法案一三四ニハ相續財産ヲ以テ被相續人ノ負債ノ全額ヲ辨償スルコト能ハサル場合ニモ亦破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトセリ)此等ノ場合ニ於テ若シ時効ノ停止ナクンハ被相續人ノ權利ニ付テモ或ハ相續人ノ確定セサル内或ハ相續人、管理人、破産管財人等カ未タ其權利アルコトヲ知ラサル間ニ其權利時効ニ因リテ消滅スルニ至ルヘク又被相續人ニ對シテ權利ヲ有スル者モ訴フヘキ相手方ナキカ爲メ時効ヲ中斷スルコトヲ得スシテ遂ニ之ヲシテ完成セシムルノ已ムコトヲ得サルニ至リ又ハ相續人アルモ權利者之ヲ知ラスシテ遂ニ時効完成前ニ之ニ對シテ請求ヲ爲スコト能ハサルコト尠カラサルヘシ故ニ本條ニ於テハ相續人ノ確定シ、管理人ノ選任セラレ又ハ破産ノ宣告アリタル時ヨリ六個月ヲ經過スルニ非サレハ時効完成セサルモノトセリ但立法論トシテハ被相續人ノ

權利ト義務トヲ同一ニ規定スルハ或ハ其當ヲ得ス是レ殊ニ被相續人ニ對シ權利ヲ有スル者ハ民事訴訟法第四十六條ニ依リ裁判所ヲシテ特別代理人ヲ選任セシムルコトヲ得ルヲ以テナリ然レトモ是レ本書ノ範圍ヲ逸スルノ嫌アルカ故ニ深ク論セス

第六十一條 時効ノ期間滿了ノ時ニ當タリ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ時効ヲ中斷スルコト能ハサルトキハ其妨碍ノ止ミタル時ヨリ二週間内ハ時効完成セス(證一三六)

本條ハ事變ニ因ル停止ニ付テ規定セリ蓋シ時効ノ停止アルハ事實上權利ヲ行使スルコトヲ得サル者ヲシテ時効ニ因リテ其權利ヲ失ハサラシメンカ爲メナリ故ニ事變ニ因リテ實際權利ヲ行使スルコト能ハサル場合ニ於テ尙ホ時効其進行ヲ止メサルモノトセハ權利者ノ爲メニ過酷ナル結果ヲ生スヘシ是レ本條ノ規定アル所以ナリ例ヘハ十年ノ時効カ既ニ九年十一个月ト二十五日ヲ經過シタル時ニ

當リ洪水ノ爲メニ交通全ク壅塞シ數日ノ間到底時効中斷ノ方法ヲ行フコト能ハストセンニ本條ノ規定ニ依レハ其洪水ノ去リタル後二週間ヲ經テ初メテ時効完成スルモノトセリ其他戰亂、震災等ノ場合皆同シ

第一百五十三條ニ據レハ催告ニ由リテ時効ヲ中斷シタルトキハ更ニ六个月内ニ一層嚴重ナル方法ヲ以テ權利行使ノ意思ヲ表明セサレハ時効中斷ノ効ナキモノトセリ然ルニ其六個月ノ期間將ニ滿了セントスルニ方リ本條ノ事變ニ遭遇セハ如何曰ク亦本條ノ適用ニ因リ事變去リタル後二週間内ハ時効完成セサルモノトスヘシ

第二節 取得時効

本節ハ權利取得ノ原因タル時効ニ付テ規定セリ但所有權ニ付テハ取得時効ノ外ニ消滅時効ヲ認メス甲カ時効ニ因リテ所有權ヲ得タルトキニ限リ乙時効ニ因リテ之ヲ失フモノトス尙ホ第六十七條ニ至リ論スル所アルヘシ

第六十二條 二十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人

ノ物ヲ占有シタル者ハ其所有權ヲ取得ス

十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ不動產ヲ占有シタル者カ其占有ノ始善意ニシテ且過失ナカリシトキハ其不動產ノ所有權ヲ取得ス(證一三八、一四〇、一四八)

本條ニ於テハ所有權ノ取得時効ヲ定メタリ而シテ原則トシテハ動產ト不動產トノ間ニ區別ヲ設ケス共ニ二十年ヲ以テ時効完成スルモノトセリ即チ取得時効ニハ二條件アリ一ハ占有ニハ期間是ナリ而シテ其占有ハ(第一)所有ノ意思ヲ以テスルモノ(第二)平穩ナルモノ(第三)公然ナルモノタルコトヲ要ス其意義ニ至リテハ第一篇ニ於テ之ヲ詳論スヘシト雖モ所有ノ意思トハ讀テ字ノ如ク所有權ヲ行使スルノ意思ヲ云ヒ平穩トハ強暴ニ對スル詞ニシテ暴力ニ因リテ得タルニ非ス又暴力ヲ以テ僅ニ之ヲ維持スルニ非サルモノヲ云ヒ公然トハ隱秘ニ對スル語ニシテ

特ニ他人ニ秘シテ其占有ヲ知ラシメサルニ非サルヲ云フ又期間ハ既ニ述ヘタルカ如ク二十年ニシテ其間ニ間斷ナキコトヲ要ス尙ホ第六十四條ニ至リテ論スル所ヲ看ヨ

右ニ論スル占有ノ三條件ハ皆時効期間中繼續シテ存スルコトヲ要スルモノナリ故ニ期間中右ノ一條件ヲ缺クニ至ルトキハ自ラ時効ノ中斷ヲ來スヘシ(所有ノ意思ノ中斷ハ占有ノ中斷ト爲リ隨テ時効中斷ノ原因タルヘキコトハ一六四ノ下ニ於テ論スヘキ所ナリ)又初メ右ノ一條件ヲ缺ケルモ後ニ之ヲ具フルニ至レハ其時ヨリ時効其進行ヲ始ムヘシ詳言スレハ初メ容假ノ占有者タルニ過キサリシ者カ所有ノ意思ヲ有スルニ至リタルトキ(一八五、二〇四、二號)初メ強暴ヲ以テ占有ヲ取得シタル者カ前占有者ヨリ何等ノ抗議ヲモ受ケス全ク平穩ニ占有ヲ爲スニ至リタルトキ又ハ初メ穩秘ニ占有ニ著手シタル者カ公然占有ヲ爲スニ至リタルトキハ其時ヨリ時効其進行ヲ始ムヘシ

本條ハ主トシテ全ク所有權ヲ有セサリシ者カ新ニ之ヲ取得スル場合ニ就テ規定

セリト雖モ眞ノ所有者カ他ニ其所有權ノ目的物ノ上ニ物權ヲ有スル者アル場合又ハ其所有權カ終期若クハ解除條件ノ到來ニ因リテ消滅スヘキ場合ニ於テ其完全ナル所有者トシテ其物ヲ占有スルトキハ亦本條ノ適用ヲ受クヘキモノトス尙ホ第二百八十九條及ヒ第三百九十七條ヲ參觀セヨ

右ハ動産、不動産ニ通スル取得時効ノ通則ナリ此外ニ尙ホ不動産ノミニ關スル特別時効アリ此時効ニ付テハ(第二)占有ハ前項ノ條件ノ外尙ホ(一)善意ナルコト(二)過失ナキコトヲ要ス善意トハ惡意ニ對シテ云ヒ自ラ其所有者タルコトヲ信スルヲ云フ過失ナキトハ普通人ノ爲スヘキ注意ヲ爲スヲ云フ例ハ登記簿ヲ一覽セハ賣主ノ所有者タラサルコト瞭然タルニ其登記簿ヲ一覽セスシテ不動産ヲ買取ルカ如キハ過失アルモノナリ此二條件ハ前項ノ三條件ト異ニシテ唯占有ノ始ニ於テ存スルコトヲ要ス(果實ノ取得ニ付テハ果實ヲ收取スル當時ニ善意ナルコトヲ要ス(一八九)第二期間ハ十年ニテ足レリ而シテ其繼續スヘキハ前項ノ場合ニ同シ)或ハ間ハ既ニ登記簿ヲ一覽セスシテ不動産ヲ讓受クルヲ以テ過失トスル以上

ハ本條第二項ノ規定ハ如何ナル場合ニ其適用ヲ見ルヘキカト曰ク例ヘハ詐欺者カ他人ノ不動産ヲ讓受ケタルモノノ如ク裝ヒ其登記ヲ登記所ニ請求シ登記官吏モ亦之ニ欺カレテ其登記ヲ爲シタル後善意者カ其詐欺者ヨリ其不動産ヲ讓受ケタル場合ノ如キ又ハ登記官吏カ誤テ抵當ノ登記ヲ登記謄本中ニ掲ケサリシカ爲メ第三者カ其抵當アルコトヲ知ラスシテ不動産ヲ讓受ケタル場合ノ如キ其他權限ナキ者又ハ無能力者ヨリ不動産ヲ讓受ケタル爲メ其讓受行爲無効ニ歸シタル場合ノ如キ是ナリ

舊民法及ヒ外國ノ多數ノ例ニ仍レハ正權原 (justus titulus, juste titre, Ersitzungstitel) ヲ必要トセリ是レ羅馬中世ノ法律以來然ル所ニシテ其理由ナキニ非ス然レトモ羅馬法ノ沿革ニ付テ之ヲ觀レハ初ハ過失ナキ善意占有ヲ要スルノ意ニシテ唯其過失ナキ爲メニハ通常一ノ權原ヲ要スルモノトセシニ過キス權原トハ賣買贈與等ノ如キ權利ノ讓渡ヲ目的トスル法律行爲ヲ云フ蓋シ假令善意ナルモ自己ノ過失ニ因リ他人ノ物ヲ自己ノ物ト信スル者ノ如キハ未タ法律ノ保護ヲ受クルニ足ラ

ス必ス相當ノ理由アリテ此誤信ヲ來シタルコトヲ要ス而シテ普通ノ場合ニ於テハ賣買贈與等ノ如キ權原ニ因リテ占有ヲ取得シタルニ非サレハ誤信ノ理由アルモノトスヘカラス故ニ其原則ヲ生シタルナリ然レトモ羅馬ニ於テハ數多ノ例外ヲ設ケ假令權原ナキモ占有者ニ過失ナキトキハ亦以テ時効ノ利益ヲ受クヘキモノトセリ例ヘハ代理人ニ依リテ或物ヲ買ハント欲シタルニ當リ其代理人カ他人ト賣買契約ヲ爲スコトナクシテ濫ニ其物ヲ携ヘ來リ假ニ賣買ニ因リテ之ヲ得タルカ如ク裝ヒ以テ之ヲ本人ニ引渡シタルトセンニ其本人ハ過失ナキ者トシテ時効ノ利益ヲ受クヘキモノトセリ又例ヘハ相手方ノ瘋癲者タルコトヲ知ルニ由ナカリシヲ以テ之ト賣買契約ヲ爲シタル場合ノ如キ亦同シキモノトセリ然ルニ後世ニ至リテ羅馬法ノ精神ヲ誤解シ正權原ヲ以テ絕對ノ條件トシ過失ノ有無ヲ問ハスシテ權原ノ有無ノミヲ問フニ至リシハ抑、法文ノ末ニ流レテ其本ヲ忘レタルモノト謂フヘシ蓋シ權原アルモ過失アリ權原ナキモ過失ナキ場合少シトセス例ヘハ登記簿ヲ一覽セスシテ不動産ヲ買ヒタルカ如キハ最モ不注意ナルモノニシ

テ大過失アリト謂フヘシ然レトモ其賣買ニシテ成立セハ正權原アリト謂ハサルコトヲ得ス(但新民法ニ於テハ汎ク登記ナケレハ讓渡等ヲ第三〇者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトセルカ故ニ本文ノ賣買モ之ヲ登記スルニ非サレハ正權原トシテ之ヲ真ノ所有者ニ對抗スルコト能ハス然ルニ所有者ナラサル者ヨリ其不動産ヲ買受ケタリトセハ其賣買ヲ登記スルコト能ハサルヲ常トス隨テ本文ノ場合ハ登記官吏ノ大不注意ニ因リ過失者ノ爲メニ登記ヲ爲シタルトキニ非サレハ生セサルヘシ又例ヘハ人ノ妻ヨリ不動産ヲ讓受ケタル場合ニ於テ其夫ノ許可ヲ受ケシヤ否ヤヲ確メサリシニ後日夫ノ許可ナカリシ爲メ其讓受行爲カ取消サレタルトキハ正權原アリト雖モ過失アルモノト謂ハサルヘカラス(財一八一、一項參觀)之ニ反シテ前ニ引例セル羅馬法ノ適用ノ場合ノ如キハ權原ナシト雖モ占有者ニ過失ナキモノナリ然ルニ正權原ヲ必要トセハ前ノ過失アル者ヲ保護シテ却テ後ノ過失ナキ者ヲ保護セサルニ至リ頗ル不當ノ結果ニ陥ルヘシ是レ本條ニ於テ斷シテ正權原ノ必要ヲ認メスシテ專ラ過失ナキコトヲ必要トセル所以ナリ

以上述フル所ニ依レハ不動産ニ付テハ十年ノ特別時效アリト雖モ動産ニ付テハ一切特別時效アルコトナシ是レ頗ル怪シムヘキカ如シト雖モ他ナシ後ノ第九十二條ニ至リ善意ニシテ且過失ナキ動産ノ占有者ハ占有ヲ取得スルト同時ニ所有權ヲ取得スヘキコトヲ規定セルカ故ニ之ニ付テハ時效ノ必要ナケレハナリ但第九十二條ノ規定ヲ以テ時效ノ規定トシ名ケテ之ヲ瞬間時效又ハ即時時效(prescription instantanée)ト云ヘル例ハ舊民法ヲ始トシ外國ノ法律ニモ乏カラスト雖モ是レ時效ノ性質ヨリ論シテ甚タ不當ナル所ナリ蓋シ時效トハ時ノ效力ヲ謂ヘルモノニシテ多少ノ期間ノ經過ヲ要スヘキニ恰モ右ノ場合ニ於テハ所有權瞬間ニシテ移轉シ毫モ期間ノ必要ナシ而モ之ヲ時效ト云フハ自家撞着モ又甚シカラスヤ故ニ本法ニ於テハ之ヲ時效ト視ス單ニ占有ノ效力トシテ之ヲ占有ノ章ニ規定セリ

第六十三條 所有權以外ノ財産權ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ平穩且公然ニ行使スル者ハ前條ノ區別ニ從ヒ二十年

又八十年ノ後其權利ヲ取得ス(證一四九三項)

本條ハ前條ノ規定ヲ所有權以外ノ財産權ニ準用セルモノナリ即チ所有權以外ノ財産權ヲ二十年間自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ平穩且公然ニ行使スル者ハ其權利ヲ取得スルヲ原則トシ尙ホ其權利行使ノ始其行使者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ十年ニシテ其權利ヲ取得スルモノトセリ

本條ニ於テ初メテ財産權(Droit patrimonial, Vermögensrecht)ナル文字ヲ使用スルカ故ニ茲ニ財産權ノ何物タルカヲ説明スルヲ必要トス余ノ信スル所ニ據レハ財産權トハ處分スルコトヲ得ヘキ利益ヲ目的トスル權利ヲ云フ物權、債權、著作權、特許權、意匠權、商標權等是ナリ法律ノ規定ニ依リ扶養ヲ受クル權利(七四七、七九〇、九五四乃至九六三)ノ如キモ亦財産權ナリ蓋シ此權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得スト雖モ其目的物ハ通常金錢其他ノ物ニシテ固ヨリ之ヲ處分スルコトヲ得ルモノナレハナリ然リト雖モ此權利ハ本條ノ規定ニ依リテ之ヲ取得スルコト能ハス其然ル所以ノモノ他ナシ是レ人ノ身分ニ附屬スル權利ニシテ父子等ノ身分ヲ有スル者ニ

非サレハ此權利ヲ有スルコト能ハス然ルニ父子等ノ身分ハ占有ニ因リテ之ヲ取得スルコト能ハス蓋シ財産權ニ非サレハナリ故ニ其身分ニ附屬セル扶養ヲ受クル權利ノ如キモ亦時効ニ因リテ之ヲ取得スルコト能ハサルナリ然レトモ他ノ財産權ハ法令ニ別段ノ定ナキ以上ハ皆本條ノ規定ニ依リテ之ヲ取得スルコトヲ得ルモノトス

第六十四條 第六十二條ノ時効ハ占有者カ任意ニ占有ヲ

中止シ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ奪ハレタルトキハ中斷ス(證一

〇六一〇八、一三九)

本條及ヒ次條ハ取得時効ノ中斷ニ關スル規定ナリ蓋シ取得時効モ消滅時効ニ同シク前節ニ詳論シタル中斷方法舊民法(證一〇五以下)ニ法定ノ中斷ト云ヘルモノニ由リテ中斷セラルヘキハ勿論ナリト雖モ尙ホ此外ニ取得時効ニ特別ナル中斷方法アリ占有ノ中斷是ナリ(舊民法同上)ニ自然ノ中斷ト云ヘルモノ(占有ノ中斷ト

ハ占有カ其要素ヲ缺クニ至リタルノ謂ニシテ或ハ意思ヲ失ヒ或ハ所持ヲ失ヒ或ハ此二者ヲ併セテ失ヘルヲ謂フナリ

第一 意思ヲ失ヒタル場合ニ於テハ往往ニシテ將來ニ時效ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至ルコトアリ例ヘハ甲カ乙ノ所有ニ屬スル不動産ヲ自己ノ所有物トシテ占有セシ後乙ノ請求ニ因リ甲カ乙ノ權利ヲ認ムルト同時ニ爾後乙ノ爲メニ占有ヲ爲スヘキ旨ヲ表示スルトキハ甲ハ全ク其占有ヲ失ヒ唯乙ノ代理人トシテ占有ヲ爲スニ過キス名ケテ之ヲ容假ノ占有 (possession précaire, unvollständiger Besitz) ト云フ此場合ニ於テハ第八十五條及ヒ第二百四條第一項第二號ノ規定ニ依リ更ニ占有ヲ始ムルニ非サレハ幾十年ノ久シキニ彌ルモ決シテ時效ノ利益ヲ受クルコト能ハス是レ他ナシ第六十二條ニ必要トセル所有ノ意思 (一六三ノ場合ニ於テハ自己ノ爲メニスル意思) ヲ失ヘハナリ

第二 所持ヲ失ヘル場合ニ於テ若シ他人ノ爲メニ之ヲ奪ハレタルトキハ後ノ第二百一條第三項及ヒ第二百三條ニ依リ一年內ニ占有回收ノ訴ヲ提起シタルト

キハ占有ハ繼續シタルモノト看做サルヘシ

舊民法ニハ占有ノ不繼續ト其中斷トヲ區別セリト雖モ是レ全ク理由ナキ所ナルカ故ニ本法ニ於テハ之ヲ別タス故ニ本條ノ中斷中ニハ舊民法ニ所謂不繼續ヲモ包含スルモノト知ルヘシ尙ホ本條ノ適用ニ付テハ後ノ占有ノ部ニ至リテ始メテ其詳細ヲ知ルコトヲ得ン(尙ホ四〇八頁參觀)

第六十五條 前條ノ規定ハ第六十三條ノ場合ニ之ヲ準用ス(證一四九三項)

本條ハ第六十三條ニ於テ第六十二條ヲ準用セシカ如ク其第六十三條ノ場合ニ前條ヲ準用シタルニ過キス尙ホ其適用ニ至リテハ後ニ占有ヲ論スルヲ觀ハ思半ニ過クルコトアルヘシ

第三節 消滅時效

本節ニ於テハ一切ノ財產權ノ消滅原因タル時效ニ付テ規定セリ但特別時效ニ付

テハ他ニ特別ノ規定アリ例ヘハ一般ノ取消權ノ時效(一二六)地役權ノ時效(二八九乃至二九三)抵當權ノ時效(三九六、三九七)債權者ヲ害スル行爲ノ取消權ノ時效(四二六)不法行爲ニ因ル要償權ノ時效(七二四)親權ヲ行フ父若クハ母、後見人、後見監督人又ハ親族會員ト子又ハ被後見人トノ間ノ債權ノ時效(八九四、九四二、人二一一)相續權ノ時效(九六六、九九三)相續ノ承認又ハ拋棄ノ取消權ノ時效(一〇二二)遺留分ノ爲メニスル滅殺權ノ時效(一一四五)ノ如キ是ナリ尙ホ商法ノ時效ハ原則トシテハ之ヲ五年トセリ(商二八五、尙ホ舊商三四九ニハ之ヲ六年トセリ)且商法ニモ特別時效多シ(商三二八、三二九、三五六、三七四、三八三、四一七、四四三、五七五、六一八、六五一、舊商一三五、五一六、七一、八一、九、九七、六等)

第六十六條 消滅時效ハ權利ヲ行使スルコトヲ得ル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ始期附又ハ停止條件附權利ノ目的物ヲ占有ス

ル第三者ノ爲メニ其占有ノ時ヨリ取得時效ノ進行スルコトヲ妨ケス但權利者ハ其時效ヲ中斷スル爲メ何時ニテモ占有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ得(證一二五、一二八)

本條ノ規定ハ普通ニ停止原因トシテ視ルモノニシテ主トシテ條件及ヒ期限ニ關セリ蓋シ消滅時效ハ權利者カ其權利ヲ行フコトヲ怠レルニ因リ假令權利アルモ之ヲ失ハシメテ可ナルモノトシタルナリ故ニ權利者未タ其權利ヲ行使スルコトヲ得サル時ヨリ時效其進行ヲ始ムルモノト爲スヘカラス例ヘハ條件附行爲ノ目的タル權利ハ條件成就ノ時ニ發生スルモノニシテ其發生前ニ之ヲ行使スルコトヲ得サルハ固コリナリ又期限附權利ハ期限ノ到來マテ或ハ未タ發生セス或ハ既ニ發生スルモ之ヲ行使スルコトヲ得ス故ニ此等ノ權利ノ消滅時效ハ條件成就期限到來ノ時ヨリ其進行ヲ始ムルモノトス普通ニ之ヲ停止原因ト云フモ未タ進行ヲ始メサル時效停止スト云フハ頗ル穩當ヲ缺ケルヲ以テ新民法ニ於テハ之ヲ停

止原因ト認メス

以上ハ消滅時效ノ原則ナリ然リト雖モ此原則ハ毫モ取得時效ノ效力ヲ妨クルコトナシ例ヘハ期限附又ハ條件附ノ債權ノ目的タル不動産ヲ二十年間占有スル者ハ第六十二條第一項ノ規定ニ依リ取得時效ヲ得ルコトヲ妨ケス又例ヘハ期限附又ハ條件附ノ地役權ノ目的タル不動産ヲ過失ナク其地役アルコトヲ知ラスシテ十年間占有スル者ハ同條第二項ノ規定ニ依リ取得時效ヲ得ルコトヲ妨ケス或ハ曰ハン期限附又ハ條件附權利アル場合ニ於テハ其期限又ハ條件ノ到來スルマテハ其權利未タ成立セサルカ故ニ取得時效ノ進行ヲ妨ケサルコトハ固ヨリ言フヲ待タサル所ナラスヤト曰ク然ラス(第一期附物權ノ存スル場合ニ於テハ當事者ノ意思ニ於テ其期限ハ單ニ其目的物ノ引渡其他其權利ノ行使ノ時期ヲ定メタルニ過キササルコト多シ此場合ニ於テハ其物權時效ニ因リテ消滅スルニ非サレハ其目的物ノ占有者ハ完全ナル所有權ヲ取得スルコト能ハス然ルニ其物權ハ之ヲ行使スルコトヲ得ルニ至リタル後消滅時效ニ必要ナル期間ヲ經過スルニ非サレ

ハ消滅セサルカノ疑アリ(第二)假令期限又ハ條件到來ノ後權利始メテ發生スヘキ場合ニ於テモ(而シテ停止條件附行爲ヨリ生スル物權及ヒ終期附又ハ解除條件附行爲ヨリ生スル原權利者ノ始期附又ハ停止條件附權利ハ皆此場合ニ屬ス)登記法(二)二號二項ノ規定ニ從ヒ假登記終期又ハ解除條件ノ場合ニ於テハ登三八ニ依リ本登記ヲモ爲スコトヲ得ヘシ)ニ依リ其權利ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルカ故ニ亦取得時效ノ結果トシテ其權利當然消滅スルコトナキカヲ疑フ者ナキヲ保セス故ニ本條第二項ヲ以テ右様ノ疑ヲ生セサラシメタリ(第二項但書ノ精神ヨリ推セハ期限附又ハ條件附ノ權利ノ存在ハ適占有者ノ取得時效ヲ妨クルモノタルコトヲ認メタルモノト謂フコトヲ得ヘシ)

以上述フル所ニ據レハ消滅時效ハ未タ完成セサルニ取得時效ハ早ク既ニ完成シ了ハルコト稀ナリトセス甚シキニ至リテハ消滅時效未タ進行ヲ始メサルニ取得時效ハ業ニ已ニ完成スルコトアルヘシ是レ取得時效ノ原則ヨリシテ已ムヲ得サル結果ナリト雖モ其消滅スヘキ權利ヲ有スル者ノ爲メニハ頗ル憐ムヘキモノア

リ是ニ於テカ本條第二項ニ於テ之ニ與フルニ占有者ノ承認ヲ求ムル權利ヲ以テセリ蓋シ占有者カ其者ノ權利ヲ承認シタルトキハ取得時效(占有者カ真ノ所有者ナルトキハ其所有權ヲ完全ニスル爲メノ時效(四〇九頁參觀)ハ之ニ依リテ中斷セラルヘキカ故ニ其者カ權利ヲ行フコトヲ得ルニ至リテ徐ロニ其權利ヲ行使シ以テ取得時效ノ完成ヲ妨クルコトヲ得ヘケレハナリ

第六十七條 債權ハ十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

債權又ハ所有權ニ非サル財産權ハ二十年間之ヲ行ハサルニ

因リテ消滅ス(證一五〇、一五五、六年十一月五日告三六二號出

訴期限規則三、一項、二項、五項、六項、四)

本條ハ普通ノ消滅時效ヲ規定シタルモノナリ本條ニ依レハ消滅時效ノ原則トシテハ財産權ハ總テ二十年ニ因リテ時效ニ罹ルヘキモノトセリ而シテ本條ニ於テ之ニ二例外ヲ認メタリ一ハ債權ニシテ是レ十年ニ因リテ時效ニ罹ルモノトシ一

ハ所有權ニシテ是レ取得時效ノ結果トシテ消滅スルノ外消滅時效ニ罹ルコトナキモノトセリ

蓋シ時效ノ期間ニ付テハ各國ノ制皆一樣ナラスト雖モ外國ニ於テハ普通時效ハ之ヲ三十年トスルモノ多シ是レ交通ノ便未タ今日ノ如ク開ケサル時代ニ在リテハ或ハ可ナラント雖モ今日ハ汽船アリ鐵道アリ郵便アリ電信アリ數百千里ヲ隔ツル地ト雖モ僅僅數日乃至數十日ノ後ハ自ラ其處ニ到ルコトヲ得ヘシ況ヤ通信ニ由リテ其事情ヲ詳ニスルハ極メテ易易タルニ於テヤ故ニ權利アラン者ハ假令遠隔ノ地ニ在ルモ之ヲ行使スルコト敢テ難シト爲サス然ルニ十年、二十年ヲ經過スルモ猶ホ之ヲ行使セサル者ハ大率甚シキ怠慢アル者ト謂ハスンハアルヘカラス之ニ三十年ノ長期ヲ假スハ蓋シ寛大ニ過キタリト謂フヘシ故ニ新民法ニ於テハ之ヲ二十年ニ短縮セリ

右ハ消滅時效ノ原則ナリト雖モ債權ニ付テハ猶ホ長キニ失スルノ感ナキニ非ス蓋シ債權ハ他ノ權利ト異ナリテ之ヲ行使スルコト極メテ容易ナルコト多ク又債

權關係ハ普通ノ取引上殊ニ頻繁ニ生スルモノナルカ故ニ此關係ニシテ不確定ナルコト多ケレハ大ニ經濟上ノ不便ヲ醸スノ虞アリ故ニ外國ニ於テモ債權ハ他ノ權利ヨリモ短キ時效ニ罹ルヘキモノトセル例ナキニ非ス殊ニ我邦ニ於テハ從來有期ノ債權ハ五年ニ因リテ時效ニ罹ルモノトセルニ今遽ニ之ヲ二十年トセハ或ハ權利上ニ劇變ヲ生シテ取引界ニ擾亂ヲ來スノ虞ナシトセス是レ蓋シ衆議院ニ於テ特ニ之ヲ十年ニ短縮シタル所以ナランカ但余ノ信スル所ニ據レハ我邦ノ版圖ハ益廣キヲ加ヘ殊ニ地勢南北千有餘里ニ渉ル島國ニシテ交通ノ便未タ遍カラス故ニ債權ノ時效ヲ十年トスルハ少シク早キニ失スルカ如キ憾ナキ能ハス然レトモ是レ自ラ立法論ニ屬スルヲ以テ深ク茲ニ論セス

第六十八條 定期金ノ債權ハ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス最後ノ辨濟期ヨリ十年間之ヲ行ハサルトキ亦同シ

定期金ノ債權者ハ時效中斷ノ證ヲ得ル爲メ何時ニテモ其債務者ノ承認書ヲ求ムルコトヲ得(證一五一、一五二)

本條ハ前條第一項ニ對スル例外規定ナリ蓋シ定期金債權ハ第一回ノ定期金ノ辨濟期ヨリ之ヲ行使スルコトヲ得ルカ故ニ前條第一項ノ規定ニ依レハ此第一回ノ辨濟期ヨリ十年ニシテ時效ニ罹ラサルコトヲ得ス政府案ニハ之ニ付キ別段ノ例外ヲ設ケザリシト雖モ衆議院ニ於テ債權ノ時效期間ヲ十年ニ短縮シタルカ爲メ定期金債權カ第一回ノ辨濟期ヨリ十年ニシテ時效ニ罹ルヘキモノトセハ頗ル短期ニ失スルノ譏ヲ免レス因リテ特ニ例外ヲ設ケテ之ヲ二十年トセリ然リト雖モ此定期金ニハ十年未滿ノ時期ヲ以テ其辨濟ヲ了ハルヘキモノナシトセス殊ニ初ハ長期ナリシモ既ニ其大半ヲ過キ殘期僅ニ十年ニ滿タサルコト尠シトセス此場合ニ於テハ最後ノ辨濟期ヨリ尙ホ十有餘年ヲ經過セサレハ時效ニ罹ラサルモノト爲リ前條第一項ニ規定スル所ト頗ル權衡ヲ得サルニ至ルヘシ故ニ此場合ニ於テハ最後ノ辨濟期ヨリ十年ニシテ時效完成スヘキモノトセリ但次條ノ規定ニ依

リ一年以下ノ時期ヲ以テ定メタル定期金ハ五年ノ時効ニ罹ルヘキヲ以テ最後ノ辨濟期ヨリ五年ヲ經過スルトキハ其定期金債權ハ必ス消滅スヘキノミ故ニ本條第一項末文ハ一年ヨリ長キ時期ヲ以テ定メタル定期金ニ付テノミ適用アルヘシ本條ニ於テ一旦定期金債權モ亦初メテ之ヲ行使スルコトヲ得ル時ヨリ時効其進行ヲ始ムヘキモノトシタル以上ハ各期ノ辨濟ハ自ラ債務者ノ承認ト爲リ時効中斷ノ方法ト爲ルヘキハ固ヨリ疑ヲ容レス故ニ實際ニ於テハ本條ニ定メタル二十年ノ時効ハ最後ニ定期金ノ辨濟ヲ爲シタル時ヨリ進行スルモノト謂フヘシ然レトモ此辨濟ノ證據ハ通常債務者ノ手ニ存スルモ債權者ノ手ニ存セス蓋シ債權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ債務者ニ其受取證ヲ交付スルヲ常トス而シテ債務者ヨリ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル證書ヲ付與スルカ如キコトハ古今東西ノ慣習ニ無キ所ナリ故ニ數十年ニ渉ル定期金ノ債權ニ付テハ債務者ハ二十年間其定期金ヲ辨濟シタルノ後忽チ時効ヲ援用シ以テ其辨濟ヲ免レントスルモ債權者ハ殆ト如何トモスルコト能ハス何トナレハ債務者ハ曰ハン汝ハ嘗テ吾ニ對シテ請求ヲ爲シ

タルコトナシ吾モ亦汝ニ對シテ辨濟ヲ爲シタルコトナシ即チ時効既ニ完成セルヲ以テ吾カ債務ハ消滅セリト而シテ債權者ハ之ニ年年辨濟ヲ受ケタル證據ヲ對抗スルコト能ハサルヘシ是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ即チ債權者ハ何時ニテモ其債務者ノ承認書ヲ求メ以テ債務者ヲシテ右ノ如キ不當ノ言ヲ爲スコトヲ得サラシメタリ

或ハ曰ハン本條ノ場合ニ於テハ各定期金皆別個ノ債權ニシテ其各個ニ付キ其辨濟期ヨリ時効其進行ヲ始ムヘキモノナリト是レ非ナリ定期金債權ナルモノハ定期金ヲ請求スル元權ニシテ各定期金ニ對スル債權ハ期數ト同數ノ權利ナリト雖モ此各債權ノ根元タル權利即チ所謂定期金債權ニシテ單ニ各獨立ナル債權ノ集合シタルモノニ非ス但當事者ノ意思明カニ或者ノ言ノ如キ場合ニ於テハ固ヨリ本條ヲ適用スヘキ限ニ在ラサルナリ

定期金トハ定期ニ支拂フヘキ金錢其他ノ物ヲ云ヘルモノニシテ佛語ノ「ラント」獨語ノ「レンテ」(rente) 是ナリ從來之ヲ年金ト譯セシモ月半年等ヲ以テ定メタルモノ

ナキニ非サルヲ以テ之ヲ定期金トセリ金ノ字ハ常ニ金錢タルヘキカヲ疑ハシムルト雖モ是レ普通ニ金錢ナルカ故ニ爾カ云ヘルニテ必スシモ金錢タルコトヲ要セス例ヘハ米穀ノ如キモ亦可ナリ猶ホ貸借ニ付キ賃金ト云ヒ(六〇一)商法ニ於テ準備金ト云ヘルカコトシ(商一九四、舊商二一九)

第六十九條 年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス(證一五六、六年十一月五日告三六二號出訴期限規則二、四項、三)

本條以下ハ短期時效ニ關ス其第一ヲ五年ノ時效トス而シテ利息、定期金、借賃、給料等ノ如キ年年、每半年、月月等ニ支拂フヘキモノニシテ以下數條ニ掲ケサルモノハ皆此時效ニ罹ルヘキモノトセリ蓋シ此等ノモノハ嚴重ニ辨濟ヲ爲ササレハ忽チ債權者ノ爲メニ支障ヲ生スヘキヲ常トスルヲ以テ慣習上債權者モ長ク其請求ヲ

怠ルコト少ク債務者モ亦長ク其辨濟ヲ怠ルコト少ク且其額モ通常多カラサルカ故ニ長ク其受取證ヲ保存スル者稀ナリ是レ此短期時效ヲ設ケタル所以ナリ

第七十條 左ニ掲ケタル債權ハ三年間之ヲ行ハサルニ因リ

テ消滅ス

一 醫師、產婆及ヒ藥劑師ノ治術、勤勞及ヒ調劑ニ關スル債權

二 技師、棟梁及ヒ請負人ノ工事ニ關スル債權但此時效ハ其負擔シタル工事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス(證一五七、六年十一月五日告三六二號出訴期限規則一、九項、二、一項)

本條及ヒ次條ハ短期時效ノ第二種ナル三年ノ時效ニ關セリ而シテ本條ニ規定スル所ハ醫師、產婆、藥劑師及ヒ技師、棟梁、請負人ノ債權ニ關セリ蓋シ此等ノ債權ハ慣習上速ニ其請求ヲ爲シ又速ニ其辨濟ヲ了ハルヲ常トシ且長日月ノ後其債權ヲ證

明スルヲ難シトスルコト多ケレハナリ
技師、棟梁、請負人ノ工事ニ關スル債權ニ付テハ其負擔シタル工事終了ノ時ヨリ時
效ヲ起算スヘキモノトセリ蓋シ慣習上此等ノ債權ハ工事終了ノ後之ヲ辨濟スル
ヲ常トスレハナリ但複雑ナル工事ニ在リテハ其全工事終了ノ後初メテ時效ヲ起
算スヘキモノトセハ其時效甚タ長キニ渉ルヘシ而シテ慣習上ニ於テモ此ノ如キ
場合ニ於テハ各種ノ工事終了ノ時ニ支拂ヲ爲スヲ常トスルカ如シ例ヘハ新ニ邸
宅ヲ構フル者ハ先ツ家屋ノ建築ヲ技師又ハ棟梁ニ依頼シ橐駝師ヲシテ庭園ノ裝
飾ヲ請負ハシムルコト多シ而シテ技師又ハ棟梁ニハ家屋ノ建築落成ノ後辨濟ヲ
爲スヘク橐駝師ニハ庭園ノ裝飾終了ノ後支拂ヲ爲スヘシ故ニ時效モ亦技師又ハ
棟梁ニ付テハ家屋落成ノ時ヨリ橐駝師ニ付テハ庭園ノ裝飾終了ノ時ヨリ其進行
ヲ始ムヘキモノトスルヲ妥當トス是レ本條第二號ノ但書ニ於テ其負擔シタル工
事終了ノ時ト云ヘル所以ナリ

第七十一條 辯護士ハ事件終了ノ時ヨリ公證人及ヒ執達吏

ハ其職務執行ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ其職務ニ關
シテ受取りタル書類ニ付キ其責ヲ免ル(證一六一)

本條ハ三年ノ時效ノ第二ノモノヲ規定セリ而シテ辯護士、公證人及ヒ執達吏カ其
職務ニ關シテ受取りタル書類返還ノ義務ニ關セリ蓋シ此等ノ書類ハ事件終了ノ
後ハ直チニ之ヲ返還スルヲ常トス殊ニ日數多ノ書類ヲ取扱フヘキ者ナルカ故
ニ其書類ニ付キ長日月ノ間責任ヲ負フヘキモノトセハ其書類ヲ返還スル毎ニ詳
細ナル受取證ヲ取置キ永ク之ヲ保存セサルヘカラス是レ到底煩ニ堪ヘサル所ナ
リ故ニ此等ノ書類ノ返還ニ付テハ特ニ時效ノ期間ヲ短縮セシナリ
本條ニ所謂事件終了トハ例ヘハ裁判ノ確定、和解、取下等ノ如キ是ナリ

第七十二條 辯護士、公證人及ヒ執達吏ノ職務ニ關スル債權
ハ其原因タル事件終了ノ時ヨリ二年間之ヲ行ハサルニ因リ
テ消滅ス但其事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタ

ルトキハ右ノ期間内ト雖モ其事項ニ關スル債權ハ消滅ス(證
一五八)

本條及ヒ次條ハ短期時效ノ第三種ナル。二年ノ時效ニ付テ規定セリ而シテ本條ニ規定スル所ハ辯護士、公證人及ヒ執達吏カ依頼人ニ對スル債權ニ關セリ蓋シ此等ノ債權ハ事件終了ノ後チ直ニ之ヲ行使スルヲ常トシ甚シキニ至リテハ事件ニ着手スルノ前業ニ已ニ其辨濟ヲ受クル者稀ナリトセス是レ特ニ此等ノ債權ノ時效ヲ短縮シタル所以ナリ但其事件ハ複雑ナルモノ多ク且往往ニシテ數年ニ涉ルモノアリ此場合ニ於テモ猶ホ事件終了ノ時ヨリ二年ヲ經過スルニ非サレハ時效完成セサルモノトセンニハ十數年ニ至リテ猶ホ此等ノ債權消滅セサルコトナシトセス故ニ本條但書ヲ以テ其事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ時效必ス完成スヘキモノトセリ例ヘハ辯護士カ事件ノ依頼ヲ受ケテヨリ五年ニシテ僅ニ其事件落着シタリトセンニ初メテ訴狀ヲ提出スルニ付キ印紙代ヲ立替ヘタルカ如キハ其訴狀提出ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後即チ事件落着ノ後直

チニ時效完成スヘシ又毎回ノ口頭辯論ニ付キ日當ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其各口頭辯論ノ日ヨリ五年ヲ經過スレハ復其日當ヲ請求スルコト能ハサルヘシ

第七十三條 左ニ掲ケタル債權ハ二年間之ヲ行ハサルニ因
リテ消滅ス

一 生産者、卸賣商人及ヒ小賣商人カ賣却シタル產物及ヒ
商品ノ代價

二 居職人及ヒ製造人ノ仕事ニ關スル債權

三 生徒及ヒ習業者ノ教育、衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル
校主、塾主、教師及ヒ師匠ノ債權(證一五六、六號、一五七、二號、
一五九、一六〇、一號、六年十一月五日告三六二號出訴期限
規則一、一項、六項、七項、二、二項、三項)

本條ハ二年ノ時效ノ第二ノモノヲ規定セリ而シテ生産者、卸賣商人、小賣商人、居職人、製造人、校主、塾主、教師及ヒ師匠ノ債權ニ關セリ此等ノ債權ハ皆長ク其請求又ハ辨濟ヲ怠ルヘキモノニ非サルヲ以テ特ニ其時效ノ期間ヲ短縮セシナリ

第七十四條 左ニ掲ケタル債權ハ一年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

- 一 月又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル雇人ノ給料
- 二 勞力者及ヒ藝人ノ賃金並ニ其供給シタル物ノ代價
- 三 運送賃
- 四 旅店、料理店、貸席及ヒ娛遊場ノ宿泊料、飲食料、席料、木戶錢、消費物代價並ニ立替金
- 五 動産ノ損料(證一六〇、六年十一月五日告三六二號出訴)

期限規則一、二項乃至四項、七項、八項、一〇項、一一項、二、四項、三、七項)

本條ハ短期時效ノ第四種ナル一〇年ノ時效ニ付テ規定セリ而シテ雇人、勞力者、藝人、旅店、料理店、貸席及ヒ娛遊場ノ債權其他運送賃及ヒ損料ニ關セリ此等ノモノハ皆直チニ其請求又ハ支拂ヲ爲スヲ常トスルカ故ニ其時效ハ最モ短期ナルヲ至當トス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

本條第四號ニ料理店ト云フハ居酒屋、蕎麥屋、天麩羅屋、鰻屋、烏屋、牛屋等ノ如キ飲食店ヲモ包含スルモノト解スヘキハ蓋シ疑ヲ容レサル所ナリ

終